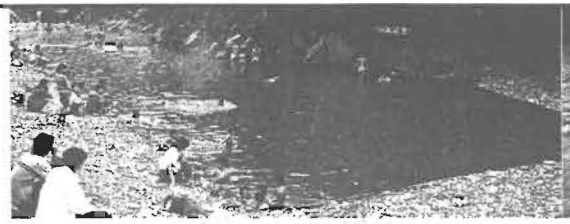
水の災害を最小限にするためには、「自助・共助・公助」が大切です。
一人ひとりが日頃から防災・減災に対する意識を高め、地域社会や行政と連携することで、みなさんの生命や財産、暮らしをシッカリと守ることができます。
川がもたらす豊かな実りやさまざまな文化、暮らしの営み、美しい景観……、これらは地域の共有財産であり、地域の魅力の源ともいえるでしょう。地域の川をみんなで大切に守っていきましょう。



みんなで守る、豊かな川・安全な川

洪水のリスクを知り、自ら備える

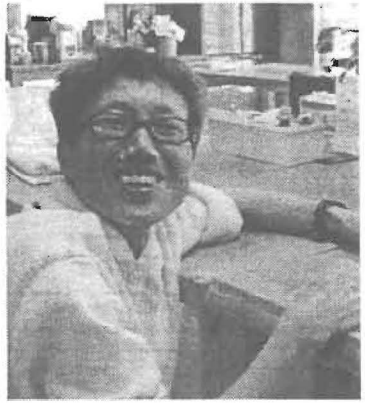
多々納 裕一さん　京都大学防災研究所教授

河川改修などのハードな水害対策には限界があり、地域コミュニティや住民自らが水害の危険に備えることが重要です。そのためには、行政による正しくわかりやすい情報提供が必要になります。自分の命を守るための「洪水ハザードマップ」や、どこが高い頻度で浸水する地域なのかがわかる「浸水危険度情報」等の情報があれば、住民自らが洪水時の避難や土地利用や地域づくりを考え、対策を講じることが可能となるからです。現在、私も参加している「琵琶湖湖南流域　水害に強い地域づくり協議会」では、国・県・市が一丸となって、このための具体的な仕組みや対策作りに取組んでいます。

遊びを通して川が教えてくれるもの

山田 貴子さん　NPO子どもネットワークセンター天気村 代表理事

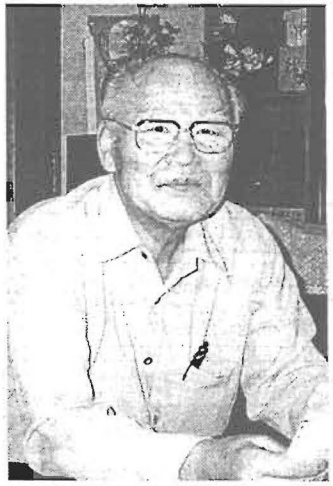
「地球をまるごとみんなの遊び場に変えてしまおう」というコンセプトのもと、川などの自然に触れる機会を子供たちに提供しています。遊ぶことを通して子供たちは川から学び、川のもつ多様な表情を感じとってくれます。普段から川と触れているからこそ、川に対する意識が高まり、水量が増えた際などには「危ない」という危機意識を感じることができ、ゴミが捨てられている時には「かわいそう」「泣いている」と川を生き物として捉える感性が養われます。



このような感覚は自然が教えてくれた宝物です。大人になっても忘れず次世代に継承してほしいものです。

川とともに生きる地域づくり

川端 弘さん　前守山市教育長



川と共生しながら街づくりを進めることが重要です。気象条件や居住環境がどう変化しているかを考え、川からの恵み、苦しみの歴史なども再認識し継承しながら、さらに、川と親しみ、そこにふれあいの場をつくるといった自然保全や再生も考えながら取り組む必要があります。また、古くより流域には水と関連した社寺があり、川に対する感謝や畏怖を伝える文化も存在します。これも風化させてはならないと思います。最後に、よりよい街づくり、すなわち川づくりのためには住民と行政の信頼構築が大前提となることを付け加えておきます。

国土交通省